HP Unified Functional Testing

Windows ® オペレーティング・システム 向け

ソフトウェア・バージョン: 12.01

新機能

ドキュメント・リリース日 : 2014 年 7 月

ソフトウェア・リリース日 : 2014 年 7 月

ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 1992 - 2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe®およびAcrobat®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Google(TM) および Google Maps(TM) は Google Inc. の商標です。

Intel®およびPentium®は、Intel Coporation の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft®、Windows®、Windows®XPおよびWindows Vista ®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。**http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals**

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。
http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html (英語サイト)

または、HP Passport のログインページの [**New users - please register**] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。**http://support.openview.hp.com**

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html (英語サイト)

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは
http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp です。

UFT 12.01 の新機能

UFT 12.01 には，次の新機能とサポートが追加されています。

本項には，次の項目が含まれています。

- 「Windows Runtime 環境およびオブジェクトの新しいサポート (テクノロジ・プレビュー)」(3ページ)
- 「Siebel Open UI アプリケーションの新しいサポート」(3ページ)
- 「SAPUI5 アプリケーションの新しいサポート (テクノロジ・プレビュー)」(3ページ)
- 「Safari での Web アプリケーションのテストの公式サポート」(4ページ)
- 「UFT バージョン 12.01 での製品の機能強化」(4ページ)
- 「UFT 12.01 での新しい環境のサポート」(5ページ)

Windows Runtime 環境 およびオブジェクトの新しいサポート (テクノロジ・プレビュー)

新しい UFT Windows Runtime Add-in を使用して，Windows 8.x または Windows Server 2012 で動作する Windows Runtime アプリケーションをテストできます。

Windows Runtime アプリケーションとは，Windows 8.x/Windows Server 2012 の[**スタート**]または[**アプリ**]画面から実行され，Windows Store からインストールされるアプリケーションです。これらのアプリケーションは，Windows の以前のバージョンで使用されていた従来のアプリケーション (Windows 8.x/Windows Server 2012 の[**デスクトップ**]画面で実行されるもの) とは異なります。

UFT では，Windows 8.x がインストールされているコンピュータに UFT がインストールされた場合，Windows Runtime Add-in は常に使用可能です。

Windows Runtime Add-in を使用すると，次のことが可能です。

- Windows Runtime アプリケーションでテストを記録して実行する
- Windows Runtime オブジェクトでオブジェクト・リポジトリを作成する
- UFT ([**デスクトップ**]画面で動作) と Windows Runtime アプリケーションの間を容易に行き来することにより，UFT を Windows 8.x で使用する

Siebel Open UI アプリケーションの新しいサポート

新しい SiebelOpenUI Web 2.0 Add in (ツールキット) を使用して，Siebel Open UI フレームワークで設計されたアプリケーションをテストできます。このツールキットは，Web Add-in Extensibility に基づいており，Web Add-in を拡張することで，Siebel Open UI 固有のオブジェクトと操作を認識します。

SiebelOpenUI ツールキットは，UFT の後で Web 2.0 ツールキットのインストールの一部としてインストールされ，Web Add-in の子アドインとして表示されます。

SAPUI5 アプリケーションの新しいサポート (テクノロジ・プレビュー)

新しい SAPUI5 Add in (ツールキット) を使用して，Internet Explorer で動作する SAPUI5 SDK で設

計されたアプリケーションをテストできます。このツールキットは，Web Add-in Extensibility に基づいており，Web Add-in を拡張することで，SAPUI5 固有のオブジェクトと操作を認識します。

SAPUI5 ツールキットは，Web Add-in の子アドインとして常に使用可能です。

Safari での Web アプリケーションのテストの公式サポート

リモート Mac コンピュータで動作する Safari ブラウザでの Web アプリケーションのテスト機能が公式にサポートされました。

リモート Safari ブラウザでテストを実行する他に，次のことができます。

- 新しいリモート・オブジェクト・スパイを使用して，Safari で動作している Web アプリケーションをスパイする
- Safari での実行中に **CaptureBitmap** テスト・オブジェクト・メソッドを使用する
- テスト結果でテスト実行のスナップショットを参照する
- Mac コンピュータと UFT を実行しているコンピュータの間の通信を，アクセス・パスフレーズと SSL 接続で保護する

UFT バージョン 12.01 での製品の機能強化

- Unified Functional Testing Agent Chrome 拡張が Web ストアで入手できるようになりました。これにより，Chrome の最新テクノロジとの整合性が確保され，UFT の Chrome サポートの自動更新が可能になります。
- **Insight オブジェクトに対する GetVisibleText メソッドの使用**：Insight によって認識されたオブジェクトから，OCR メカニズムを使用してテキストを取得できるようになりました。このテキストは，検証目的で，あるいはアプリケーションのオブジェクトまたは状態の間の区別のために使用できます。
- **Flex Advanced Data Grid オブジェクトの基本的なサポート**：UFT Flex add-in が，Advanced Data Grid コントロールを FlexTable テスト・オブジェクトとして認識し，これらのコントロールに対して基本的なテーブル機能をサポートするようになりました。これに加えて，UFT は，**ExpandRow**，**CollapseRow**，**SortByColumn** 操作をこのタイプのテーブルに対してサポートします。
- **URL からの WADL ファイルのインポート**：従来，WADL ファイルを使用して REST サービス・メソッドを作成するには，メソッドを含む WADL を，ファイル・システムに保存されているファイルからインポートする必要がありました。現在は，WADL ファイルを URL からインポートできるようになりました。これは，WSDL ファイルを URL からインポートできるのと同じです。

  また，フライト API アプリケーションにサービスの一部としてサンプル WADL が追加されました。
- **セキュリティで保護された Web サービスをテストする際のプリエンプティブ・セキュリティの使用**：UFT は，Web サービス要求を送信する際に，Web サービス・ステップのセキュリティ認証情報を送信できるようになりました。

  従来は，セキュリティ設定を必要とする Web サービス・メソッドをテストする場合，UFT は最初は Web サービス・テスト・ステップのセキュリティ資格情報を送信せず，Web サーバからのセキュリティ資格情報の要求を待っていました。現在は，[プロパティ] 表示枠の [**一般**] タブ (HTTP 要求およ

び REST サービス・メソッドの場合) または[プロパティ] 表示枠の[HTTP] タブ (Web サービス・メソッドおよび SOAP 要求ステップの場合) でオプションを選択することにより，最初の Web サービス要求でセキュリティ情報を送信できるようになりました。

- **デバッグの改善** : テストをデバッグする際に，[ブレークポイント] および[コールスタック] 表示枠に，現在のドキュメント (ブレークポイントを含むドキュメントまたはテストの現在の実行コンテキストにあるドキュメント) の名前が表示されます。これにより，デバッグセッションでの操作がさらに容易になります。

- **データ・テーブルを Excel にエクスポートする際の宛先シートの指定 : DataTable.ExportSheet** メソッドを使用する際に，宛先ワークシートの名前を指定できるようになりました。これにより，Excel 出力のより細かい制御が可能になります。たとえば，テスト実行の反復ごとに異なるシートを生成することができます。

- **ドキュメントの改善** : 新しい HTML5 ドキュメント形式は，新しい外観と操作性を備え，次の特長を持っています。

  - 検索結果に，見つかったトピックの短い抜粋が表示されます。

  - これまで存在した検索フィルタの他に，検索フィルタを使用して『HP UFT Object Model Reference for GUI Testing』に検索を限定することができます。

  - ナビゲーションがよりスムーズになりました。たとえば，相互参照をクリックすると，参照されたページが開き，該当する位置までスクロールします。

UFT 12.01 での新しい環境のサポート

UFT 12.01 では，次の環境が新たにサポートされています。

- Firefox および Chrome の最新バージョンの更新されたサポート。特定のブラウザ・バージョンの詳細については，『HP Unified Functional Testing 使用可能製品マトリクス』を参照してください。

- JDK 1.8

- HyperV (テクノロジ・プレビュー・レベル)

- SAP Web Dynpro ABAP for NW 7.40

- SAP Web UI での Internet Explorer サポートの拡張

- Windows 2012 R2 (テクノロジ・プレビュー・レベル)

- Internet Explorer 11 の拡張保護モードのサポート

UFT 12.00 の新機能

UFT 12.00 で追加された新機能およびサポートの詳細については，次の項を参照してください。それぞれの項で，UFT 全体の変更点とGUI テストまたは API テストに関連する変更点について説明しています。

本項には，次の項目が含まれています。

- 「UFT のインストール: 高速，小サイズ，高セキュリティ」(6ページ)
- 「リモート Mac コンピュータ上の Safari での GUI テストの実行 」(7ページ)
- 「実行セッション後に実行結果を ALM に条件付きアップロード」(7ページ)
- 「バージョン 12.00 での製品の機能強化」(7ページ)
- 「バージョン 12.00 での新しい環境のサポート」(10ページ)

UFT のインストール: 高速，小サイズ，高セキュリティ

UFT 12.00 では新しいインストール・パッケージが提供されており，高いセキュリティと速度で UFT をインストールできます。

- インストール・パッケージのサイズが以前のリリースより大幅に小さくなり，インストール時間が短縮されます。
- DVD または Web ダウンロード・パッケージから UFT をインストールできます。
- UFT のインストールの一環として，UFT Add-in for ALM と Run Results Viewer もインストールできます。
- インストール・プロセスで，UFT の実行に必要な設定がすべて行われます。インストール後のプログラムを追加実行する必要はなくなりました。
- インストール時のセキュリティが向上しており，コンピュータのユーザ・アカウント制御 (UAC) を一時的に無効にしなくても，UFT をインストールできます。
- サポートされている任意の言語で UFT をインストールできるようになりました。UFT 製品のインストールに加えて，言語パックを別途インストールする必要はありません。

サイレント・インストールを一度実行するだけで，追加インストールを実行せずに済ませることもできます。サイレント・インストールの特徴は次のとおりです。

- 前提条件となるソフトウェアを 1 つのコマンドですべてインストールできます (個別にインストールする必要はありません) 。
- すべてのアドイン (ALM Add-in for UFT も含む) が 1 つのサイレント・インストール・コマンドでインストールされ，再起動も必要ありません。

- サイレント・インストール・コマンドにすべての UFT 設定を追加できます。
- サイレント・インストールは，管理者権限なしで実行できます。

組織内のコンピュータ全体にまたがる大規模なエンタープライズ・デプロイメント用のガイドラインもあります。それには，ベスト・プラクティスとセキュリティ・ガイドラインも含まれています。

詳細については，『HP Unified Functional Testing インストール・ガイド』を参照してください。

リモート Mac コンピュータ上の Safari での GUI テストの実行

Web アプリケーションのテストを，リモートの Mac コンピュータ上で実行されている Safari ブラウザで行えるようになりました。

注： この機能は，テクノロジ・プレビュー・レベルで提供されています。

UFT 接続エージェント (UFT インストールに付属) をリモートの Mac コンピュータにインストールした後は，UFT が Mac コンピュータにリモートから接続し，Web ステップを Safari ブラウザで実行できます。

なお，テストの設計は，サポートされる (Windows の) ブラウザを使用してローカルに行う必要があります。また，Safari ブラウザで実行できるのは，Web テスト・オブジェクトのステップのみです。他のステップは，ユーティリティ・オブジェクト・ステップ (**SystemUtil.Run** など) も含め，すべて UFT コンピュータ上でローカルに実行されます。

実行セッション後に実行結果を ALM に条件付きアップロード

ALM サイト管理者がサイト・パラメータを設定して，実行セッションでの実行結果を ALM に条件付きでアップロードするように UFT に指示できるようになりました。結果を常にアップロードするようにパラメータを設定することも，サイト・パラメータの引数を使用して，結果がアップロードされる条件を指定することもできます。

設定したこのパラメータは，UFT テストの実行時に，サイト上のすべてのプロジェクトから使用できます。

この機能は，ALM バージョン 12.00 でサポートされています。

バージョン 12.00 での製品の機能強化

- **複数の UFT インスタンスでの Flex テストの同時実行 (Windows Sever)**

  UFT がテスト対象の Flex アプリケーションと通信する際に，使用可能なポートを 24654 ～ 24663 の範囲から選択するようになりました。

  これにより，複数の Windows Server ユーザが同じポートを取り合わずに，UFT テストを Flex アプリケーションで同時に実行できます。

- **外部認証 (CAC など) を使用した ALM への接続**

  ［ALM 接続］ダイアログ・ボックスにユーザ名とパスワードを入力するという従来のモデルではなく，外部認証を使用して，UFT をALM 12.00 サーバおよびプロジェクトに接続できるようになりました。

これにより，ユーザは，ALM プロジェクトのユーザ名とパスワードを別々に保持し記憶しておくのではなく，インストール済みの外部認証証明書やシングル・サインオンのメカニズムを使用できます。

CAC (共通アクセス・カード)，SiteMinder などの外部認証システムを使用するように ALM 12.00 サーバが設定されている場合，ユーザが[ALM 接続]ダイアログ・ボックスを開くときは，その認証方法が使用されます。

- **ALM またはオートメーションでの実行中にテスト実行をブレークポイントで停止する処理の有効化または無効化**

  オートメーション・オブジェクト・モデルで，新しい RunDebug メソッドを使用できます。

  この方法は，オートメーションを使用してテストを実行しているときに，ブレークポイントで停止するように UFT を設定します。ALM から実行するか，オートメーションでの実行かは関係しません。

  > **注：** これまでの「**実行**」オートメーション・メソッドを使用する場合，テスト内にブレークポイントが保存されていてもテストは停止しません。

- **テストの仮想化サービスの詳細をテスト結果に表示**

  仮想化サービスを使用するテストを実行するときに，サービスの詳細をテスト結果に表示できるようになりました。

  - サービスの名前と，デプロイされたサービスの場所
  - サービスのデプロイメント・ステータス
  - このテスト実行時エージェント・モードで使用されたパフォーマンス・モデルとデータ・モデル
  - このテスト実行での仮想化サービスのデータ・シミュレーションとパフォーマンス・シミュレーションの精度

- **容易になったヘルプ検索**

  UFT ヘルプから有用な関連情報をより簡単に見つけることができるようになりました。

  - **API テストのヘルプの改善**：API テストの設計のセクションに，API テストのイベント・ハンドラで使用可能なコードの作成に関する章が設けられました。この章には，API テストのイベント・ハンドラで使用可能な一般的なオブジェクトとプロパティのリストも記載されています。
  - **関数リファレンス検索の改善**
    - **小型になった『GUI Testing Object Model Reference』。** このヘルプに，UFT のすべてのテスト・オブジェクトに共通するメソッドとプロパティのヘルプ・ページが一部含まれるようになりました。この変更により，ヘルプのサイズがかなり小さくなり，その結果，検索と索引の性能が向上しました。

ヘルプの[目次]表示枠でこれらのページは，他のアドイン・ノードと並列に，[標準のメソッドとプロパティ]ノードの下にのみ表示されます。

- 一部のヘルプ機能は，参照形式がCHMからWebヘルプに変更されて以降削除されていましたが，今回復元されました。
  - **索引を使用して**，『GUI Testing Object Model Reference』と『VBScript Reference』の情報を検索できるようになりました。
  - **VBScript のコンテキスト・ヘルプ**のキーワードにより，関連トピックが開くようになりました。

- **チェックポイントおよび出力値を作成するときのための，統一されたカスタマイズ可能ヘルプ**: チェックポイントまたは出力値を作成する1つのタスクで，作成するチェックポイントまたは出力値のタイプを選択すると，必要な詳細のみが含まれる関連情報が動的に生成されます。

- **Automation Reference と Schema Reference の CHM ファイルへの簡単なアクセス**: リファレンスのCHMファイルは，これまでヘルプ・メニュー (**HP UFT GUI テスト オートメーション & スキーマ リファレンス ヘルプ**) からのみアクセスできましたが，UFT のメインのヘルプ・ページからアクセスできるようになりました。

  含まれる内容は，次のとおりです。

  - UFT Automation Object Model Reference
  - Object Repository Automation Reference
  - HP Run Results Schema Reference
  - Test Object Schema Reference
  - Object Repository Schema Reference

- **UFT の Testing Extensibility と新バージョンの Visual Studio の使用**

  - Testing Extensibility が向上され，Visual Studio 2010 および Visual Studio 2012 をサポートするようになりました。

    サンプル・アプリケーションが更新されました。

    - Visual Studio 2003 のサンプルは削除されました。
    - 新しい Visual Studio 2010 および Visual Studio 2012 バージョンの **QuickId** および **HoursReport** のサンプルを使用できます。

  - 新しい Testing Extensibility SDK では，インタフェースが新しくなっており，次の処理が可能です。

    - 記録セッション中に，記録されないステップをテストに追加します。
    - 実行セッション中に，レポートに行を追加します。レポートは汎用にすることも，テスト・オブ

ジェクトに関連付けることもできます。

- 長方形の画像ファイルではなく，アクティブな画面の画像ファイルを提供します。

UFT Testing Extensibility は，独立した SDK として提供されます。テストの拡張性については，HP プロバイダにお問い合わせください。

バージョン 12.00 での新しい環境のサポート

- 更新された Mozilla Firefox および Chrome のサポート : 特定のブラウザ・バージョンの詳細については，『HP Unified Functional Testing 使用可能製品マトリクス』を参照してください。
- Mac 上の Safari (テクノロジ・プレビュー・レベル) : 6.00 と 6.10 (Mac OS Mountain Lion 10.8 上) および 7.00 (Mac OS Mavericks 10.9 上)
- Windows 8.1 (テクノロジ・プレビュー・レベル)
- .NET Framework 4.5
- Visual Studio 2010 および 2012 の Extensibility サポートのテスト
- Delphi XE2
- Stingray 11.1
- Web Dynpro ABAP for NW 7.31

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on 新機能 (Unified Functional Testing 12.01)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信] をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、sw-doc@hp.com宛にお送りください。

Java™
COMPATIBLE